

実践報告

第8回AHF女子ジュニアアジアカップフィジオ帯同報告

川口浩太郎¹⁾、久我晃広²⁾、小林和典³⁾

1) 兵庫医科大学リハビリテーション学部、2) 駿河台大学スポーツ科学部、3) 東海学院大学健康福祉学部

Physiotherapy Support for U21 Japan Women's Hockey Team in the 8th Junior Asia Cup

Kotaro KAWAGUCHI¹⁾, Akihiro KUGA²⁾, Kazunori KOBAYASHI³⁾

1) School of Rehabilitation, Hyogo Medical University

2) Faculty of Sport Science, Surugadai University

3) Faculty of Health and Welfare, Tokai Gakuin University

抄 録

AHF女子ジュニアアジアカップは、アジアホッケー連盟 (Asian Hockey Federation, AHF) が主催する21歳以下のアジア圏の国際大会であり、ホッケー女子ジュニアワールドカップの予選を兼ねている。第8回大会は2023年6月2日から6月11日に岐阜県各務原市で開催され、日本チームは3位となり、2023年11月末からチリで行われるホッケー女子ジュニアワールドカップの出場権を獲得した。

今回、日本代表チームのフィジオとして帯同する機会を得て、選手の外傷処置、コンディショニング、テーピング等を行った。スポーツ現場への帯同では、外傷処置、テーピングなど医療機関では普段行わない対応を行うこともあるが、コンディショニングでは医療機関で行われる理学療法で十分に対応可能である。

キーワード：ホッケー、AHF女子ジュニアアジアカップ、U21日本代表、フィジオ

Key words：Hockey, AHF Women's Junior Asia Cup, U21 Japan Women's Hockey team, Physio

I はじめに

アジアホッケー連盟 (Asian Hockey Federation, AHF) が主催する第8回AHF女子ジュニアアジアカップが岐阜県各務原市にある川崎重工ホッケースタジアムで2023年6月2日から11日までの10日間で開催された (図1)。この大会は、本来、2021年に開催される予定であったが、コロナ禍のため開催が延期され、今回の開催となった。

筆者は、ホッケー競技に1994年から関わり、今回、監督からの依頼によりU21女子日本代表チームのフィジオとして参加する機会を得た。大会期間中、選手の健康管理・コンディショニングを行ったので、その活動について報告する。

なお、日本やアメリカではスポーツ選手の健康・ケガ等の管理をする役割の人を「トレーナー」と呼ぶが、国際ゲームではPhysiotherapistの略で「Physio (フィジオ)」と呼ばれることがほとんどであるので、本稿

では「フィジオ」とする。

Ⅱ AHFジュニアアジアカップ

AHFは国際ホッケー連盟（FIH）の5大陸連盟の一つで、アジア圏の31の加盟国のホッケー協会により構成されている。国代表カテゴリーのアジアカップ、アジアチャンピオンズトロフィーの開催、アジア大会ホッケー競技の運営のほか、U21、U18、U16などのカテゴリーの大会も開催、運営している¹⁾。

AHFジュニアアジアカップはAHFが主催する21歳以下カテゴリーの大会で、男子、女子別に大会が開催される。また、この大会は国際ホッケー連盟が主催するジュニアワールドカップの予選も兼ねている。第8回大会に向けての日本代表女子ホッケーチームは、チームマネージャー1名、ヘッドコーチ1名、コーチ3名、選手18名、リザーブ選手2名、フィジオ2名の計27名で構成されていた（図2）。

第8回AHF女子ジュニアアジアカップは、岐阜県各務原市にある川崎重工ホッケースタジアムで2023年6月2日から11日までの10日間で開催予定であった



図1. 第8回AHF女子ジュニアアジアカップの一場面
(写真提供 佐藤茂樹 氏)



図2. U21女子日本代表チーム集合写真
(写真提供 佐藤茂樹 氏)

が、6月2日の警報級の大雨の影響で、開催初日の試合はすべて中止となり、プールマッチの日程が変更された。今大会の参加国は表1のとおり10カ国で、日本は参加國中4番目の世界ランキングであった。

6月3日から行われたプールマッチでは、中国に惜敗したもののプール2位となり、準決勝へコマを進めた。準決勝ではインドと対戦し、0-1で敗れたが、3位決定戦ではプールマッチで勝てなかった中国に対して2-1で勝利し3位となった（表2、図3）。その結果、女子U21日本代表チームは、2023年11月29日からアルゼンチンで開催される第10回FIH女子ジュニアワールドカップへの出場権を獲得した。

Ⅲ フィジオサポート

大会期間中、2名のフィジオで選手の健康管理、外傷処置、コンディショニング、テーピング等を行った。大会期間中のサポート件数を表3に示す。

外傷は打撲が多く、1例のみ準決勝のインド戦で相手選手に左膝をスティックで叩かれたことによる裂傷があった。この選手は、試合後、会場付き医師に縫合

表1. 第8回AHF女子ジュニアアジアカップ参加国
Women's Junior Asia Cup2023

Pool A	Pool B
India (6)	China (14)
Korea (7)	Japan (15)
Malaysia (17)	Kazakhstan (35)
Chinese Taipei (31)	Hong Kong China (38)
Uzbekistan (47)	Indonesia (49)

()は2023年6月大会終了後の世界ランキング

表2. 第8回AHF女子ジュニアアジアカップでの日本代表チームの戦績

Pool B	result
2023/6/3 Japan	23-0 Hong Kong China
2023/6/4 Japan	21-0 Indonesia
2023/6/6 Japan	0-1 China
2023/6/8 Japan	8-0 Kazakhstan
Semi Final	
2023/6/10 Japan	0-1 India
Match for the 3rd place	
2023/6/11 Japan	1-0 China

処置（図4）をしてもらったが、3位決定戦ではリザーブ選手と交代を余儀なくされた。打撲などの外傷に対しては、アイシング、圧迫、電気刺激療法（微弱電流刺激）などで対応した。

コンディショニングの対象は、ハムストリングスの張り、足関節捻挫後遺症が多かった。これらに対しては物理療法として超音波治療、電気刺激療法（高電圧治療、低周波治療）を用い、ストレッチや徒手療法、エクササイズも併用した。テーピングは足関節に対するものやハムストリングスに対するものが多かった。

今大会でもホッケー選手に対する外傷・コンディショニング対象は、我々の過去の報告²⁾と同様の傾向であったが、腰痛を訴える選手は少なかった。

応することができた。活動の内容のうち、外傷処置、テーピングなどはスポーツ現場で経験を積む必要があるが、コンディショニングで行うことは医療機関で行われている理学療法で十分に対応可能であった。今回の活動経験を理学療法教育の中にも取り入れていきたい。

また、U21カテゴリーは、オリンピックなどに出場する国代表へのステップでもあるので、今後もサポートを続けていきたい。

最後になりますが、このような帯同機会を与えていただきました協会関係者、チーム関係者ならびに兵庫医科大学、リハビリテーション学部教員の方々に深謝いたします。

IV おわりに

今回、第8回AHF女子ジュニアアジアカップにフィジオとして参加した。チームとしての結果は3位となり、目標であったジュニアワールドカップへの出場権を獲得することができた。今大会ではフィジオが2名体制であったため、比較的余裕をもって、選手に対

文献

- 1) Asia Hockey. <http://www.asiahockey.org/about/> (accessed 2023-06-28)
- 2) 川口浩太郎、坂口顕、曾田幸一朗 他. ホッケー競技：打撲、下肢症状、腰痛への対応. 理学療法. 2019, 36(2), p175-185.



図3. 3位表彰式集合写真
(写真提供 佐藤茂樹 氏)



図4. 左膝裂傷処置後

表3. 大会期間中のケア内容

	エクササイズ	ストレッチ	徒手療法	テーピング	超音波治療	電気刺激療法	その他	合計	急性外傷発生件数	急性外傷内訳
6月2日	2	4	4		2	3		15		
6月3日	3	4	3	4	3	3		20		
6月4日	6	5	7	5	2	6	1	32	1	左膝打撲
6月5日	5	7	7	5	3	5	1	33		
6月6日	3	5	5	4	1	3	1	22		
6月7日	3	7	7	3	1	5	1	27		
6月8日	4	5	5	1	1	4	1	21	1	右ハムストリングス筋膜炎
6月9日	4	7	8	6	4	7	1	37		
6月10日	4	7	7	4	3	5	2	32	1	左膝挫傷・裂傷
6月11日				5		1		6	2	左前腕打撲、右肩捻挫・挫傷